

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
105-101	中学校	音楽	器楽合奏	第1～3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
27 教芸	器楽 027-72	中学生の器楽		

1. 編修の基本方針

編修の趣旨

私たちは音楽科の学習を通して、生徒に「このような資質・能力を育みたい」と願いました。

- 音楽を通して社会と関わりながら豊かな人生を切り拓く力。
- 音楽の幅広い知識や技能。
- 主体的・対話的で深い学びの実現によって得られる、汎用性の高い学力。

こうした課題に取り組むために、次のようなことに留意して編修しました。

基本方針 1

さまざまな音楽文化に触れられるようにします。

我が国や諸外国に伝わるさまざまな音楽に触れ、そのよさを感じ取りながら、表現活動に取り組みます。



基本方針 2

音楽の幅広い知識や技能を獲得できるようにします。

楽器の特徴などの知識や、表現活動をするための技能を確実に獲得できるように、さまざまな工夫を凝らしました。



基本方針 3

主体的・対話的で深い学びを促します。

生徒が課題意識をもって友達と対話し、協働しながら学習することで学びを深めます。



3つの基本方針

さまざまな音楽文化に触れられるようにします。
我が国や諸外国に伝わるさまざまな音楽に触れ、そのよさを感じ取りながら、表現活動に取り組みます。

1 和楽器による表現活動を通して、我が国の伝統的な音楽のよさに触れます。

箏

箏の演奏を聴こう

「箏」から読み取れる「箏」は、弦楽器の一種です。箏の演奏は、箏の弦を弾くことで音を出します。また、箏の演奏には、箏の演奏者の演奏技術が反映されています。

箏の演奏を聴こう

「箏」から読み取れる「箏」は、弦楽器の一種です。箏の演奏は、箏の弦を弾くことで音を出します。また、箏の演奏には、箏の演奏者の演奏技術が反映されています。

箏の演奏を聴こう

「箏」から読み取れる「箏」は、弦楽器の一種です。箏の演奏は、箏の弦を弾くことで音を出します。また、箏の演奏には、箏の演奏者の演奏技術が反映されています。

箏の演奏を聴こう

「箏」から読み取れる「箏」は、弦楽器の一種です。箏の演奏は、箏の弦を弾くことで音を出します。また、箏の演奏には、箏の演奏者の演奏技術が反映されています。

p.34・35

各部の名称

各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。

各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。

各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。

篠笛

篠笛の演奏を聴こう

篠笛の演奏は、篠笛の音を出すことで音を出します。また、篠笛の演奏には、篠笛の演奏者の演奏技術が反映されています。

篠笛の演奏を聴こう

篠笛の演奏は、篠笛の音を出すことで音を出します。また、篠笛の演奏には、篠笛の演奏者の演奏技術が反映されています。

篠笛の演奏を聴こう

篠笛の演奏は、篠笛の音を出すことで音を出します。また、篠笛の演奏には、篠笛の演奏者の演奏技術が反映されています。

p.56・57

各部の名称

各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。

各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。

各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。各部の名称は、箏の構造の図に添えて付けられています。

2 さまざまな音楽と楽器とのつながりを知ることができます。

日本の伝統音楽の楽器編成

日本の伝統音楽には、さまざまな楽器が用いられます。ここでは、それぞれの音楽で演奏される主要な楽器を紹介し、管、弦、打楽器の組み合わせにも注目しましょう。

	管楽器	弦楽器	打楽器
雅楽(管楽)	笙、篳篥、尺八	琵琶、三味線	太鼓、箏、尺八
能・狂言	笙、篳篥	琵琶、三味線	太鼓、箏、尺八
歌舞伎(長唄)	笙、篳篥	琵琶、三味線	太鼓、箏、尺八
文楽(長唄)	笙、篳篥	琵琶、三味線	太鼓、箏、尺八
三曲合奏	尺八	琵琶、三味線	太鼓、箏、尺八
民謡(郷土の芸能)	尺八	琵琶、三味線	太鼓、箏、尺八

p.59 日本の伝統音楽の楽器編成

音楽の幅広い知識や技能を獲得できるようにします。楽器の特徴などの知識や、表現活動をするための技能を確実に獲得できるように、さまざまな工夫を凝らしました。

1 たくさんの写真や図版を用い、分かりやすく説明しています。

このページは、打楽器の演奏方法を詳しく説明しています。Bongo、Conga、Castanets、Tambourine、Shakerのそれぞれについて、写真、図版、楽譜が掲載されています。また、「演奏のコツ」として、手の位置やリズムの取り方などの細かいポイントも解説されています。

p.64・65

2 見やすく、スッキリとした紙面により、スムーズな学習を実現します。

インクルーシブ教育の実現を目指し、特別支援教育や多様な色覚特性などの観点から、基本的に白を基調とした紙面にするとともに、情報の配置の仕方も工夫しました。

このページは、ギター演奏の基礎的な技術を解説しています。「手のポジションを確かめよう」では、指の正しい置き方を図で示しています。「ストローク奏法」では、ダウンストロークとアップストロークの違いを説明しています。また、コードの押さえ方についても詳しく説明されています。

p.30・31

このページは、尺八の演奏方法を詳しく説明しています。「尺八の演奏を聴こう」では、尺八の音色や演奏スタイルについて紹介しています。「各部の名称」では、尺八の各部分の呼び名を説明しています。「基本の音と運指」では、尺八の基本的な音階と指の動きを解説しています。

p.60・61

主体的・対話的で深い学びを促します。

生徒が課題意識をもって友達と対話し、協働しながら学習することで学びを深めます。

1 キャラクターが主体的・対話的な学習をサポートします。

学びのコンパス 曲の構成を捉えよう

1 曲は①②の2つの部分で構成されています。演奏を聴いたり1と2のパートのリズムを演奏したりして、それぞれの部分で各パートのリズムや強弱、音の重なり方などどのような特徴があるのか確かめましょう。

②の部分について

2のパートがずっと幾打ちをJで演奏しているね。

1のパートは裏打ちだから、2のパートのリズムにのってJで力強く表現したくなるね。

①の部分について

1と2のパートの役割はそれぞれどうなっているかな？

リズムや強弱は②の部分と比べてどう変わったかな？

2 演奏順序は①→②→①になっています。

①で確かめたことをもとに、それぞれの部分のように演奏したいのかを考え、表現の仕方を工夫しましょう。

注目するポイント

リズム テクスチャ 強弱 構成

①と②で変化を付けるにはどう演奏するといいかな。

大鼓

メロディ

55

p.55

学びのコンパス 音の重なり方の特徴を捉えよう

1 演奏を聴いたり、1と2のパートのリズムを演奏したりして、①～②それぞれ部分について、各パートの音色やリズム、2つのパートの音の重なり方、強弱にどのような特徴があるのか確かめましょう。

②の部分は、①のパートが1のパートを同じリズムで強いつけているね。

強弱に特徴があるのはどの部分かな？

①の部分は、前半と後半の2分節で、1と2のパートのリズムが入れ替わっているね。

2 ①で確かめたことをもとに、1と2のパートの音の重なり方に気を付けて、それぞれの部分の表現の仕方を工夫しましょう。

注目するポイント

音色 リズム テクスチャ 強弱 構成

②の部分は1のパートをよく聴いて、同じ強さで続けられるようにしたいね。

①の部分は、2つのパートで一体感を狙いたいね。そのためには、どんな工夫をするといいかな。

手拍子と足踏み音の出し方をいろいろ試して、音色や音程を確認しよう。

手拍子と足踏みで演奏する前に、リズムを声に出して聴いたり、手拍子だけで演奏したりして、確認してみよう。

メロディ

85

p.85

特に意を用いた点

ギターのダイアグラム

奏者側から見た運指の模式図を併用し、より分かりやすく示しました。

メジャーコード

C

D

E

F

p.102

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭口絵	打楽器奏者、ドラマーの石若 駿さんのインタビューを通して、楽器やリズムを通して自分の思いを表現することの大切さを感じ取ることができるようになりました。(第二号)	p.2・3
	人が楽器を演奏するということについて考え、社会とのつながりの中で理解できるようにしました。(第四号)	p.4・5
リコーダー ～ 打楽器	各楽器の特徴や基本的な奏法を理解することができるように、分かりやすい写真と説明文を示しました。(第一号)	p.10～67
	器楽の活動における表現の工夫など、音楽科の学力を高めることのできる教材を配置し、その学習手順を示しました。(第一号)	p.16・17 p.54・55 p.80・81 p.84・85
	和楽器を活用した学習活動を通して、我が国の伝統的な音楽に親しみ、そのよさを味わえるようにしました。(第五号)	p.34～62
	生徒一人一人の創造性を育成するために、創作の教材を含めました。(第二号)	p.43
	諸外国の音楽で使用する楽器を紹介し、それらを用いる音楽によりいっそう親しめるようにしました。(第五号)	p.63～67
	グループ活動の中で、協働しながら学習を進められるような教材を含めました。(第三号)	p.16・17 p.54・55
アンサンブル	グループ活動の中で協働しながら学習を進めることのできる教材を含めました。(第三号)	全般 特に p.80・81 p.84・85
	我が国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、我が国の伝統的な音楽やその手法を用いた教材を掲載しました。(第五号)	p.92～95
	生徒一人一人の創造性を培うために、リズムをつくったり、即興的に演奏したりすることのできる教材を掲載しました。(第二号)	p.88・89
楽器で Melody	さまざまなジャンルの名曲の旋律をリコーダーや和楽器などで演奏し、それらに親しめるようにしました。(第一号)	p.96～99
資料	我が国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、我が国の伝統音楽にどのような楽器が使われているかを示しました。(第五号)	p.59
	和楽器を演奏している中学生の姿を紹介することによって、我が国の伝統的な音楽や楽器に親しみをもてるようにしました。(第五号)	p.107

編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
105-101	中学校	音楽	器楽合奏	第1～3学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
27 教芸	器楽 027-72	中学生の器楽		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1 学習指導要領に示された内容を確実に学習することができます。

「器楽」の学習活動を通して「学び」を確実にに行えるように、一部の教材に「学習目標」や「活動文」等の他、「学びのコンパス」を示しました。

学習目標 活動文

音楽を形づくっている要素 考えたいポイント

この教材で特に考えたいポイントを例示しています。

学びのコンパス

SAMPLE

p.16・17

p.84・85

2 楽器の奏法や基本的な技能を確実に習得することができます。

さまざまな楽器の奏法や基本的な技能を分かりやすく説明しました。段階を踏んで無理なく取り組むことができます。

LESSON 1 (吹奏による演奏)

LESSON 2 (吹奏による演奏)

LESSON 3 (打楽器)

LESSON 4 (打楽器)

p.14・15

p.18・19

p.20・21

p.23

3 和楽器への興味・関心が高まるよう、エキスパートの方々からのメッセージを掲載しました。

和楽器奏者の方々から、専門家ならではのメッセージをいただきました。

こと 箏

箏の演奏を聴こう

「**手紙**」から第3楽章「輪舌」
安城謙三 作曲

箏のさまざまな奏法が用いられている曲です。繰り返し登場する主な旋律には、「六段の調」の「百段」の音階部分が入っています。
〔p.40「六段の調」から「百段」〕

参考曲
千鶴の曲
二世古沢秋枝 作曲

遠藤千晶さんからのメッセージ

箏は、糸の弾き方によってさまざまな音色を出すことができます。また、「平調子」(● p.38)などに調弦された糸を順番に弾くことによって、日本の音階の楽しさを感じ取ることができます。一つ一つの音の響きをよく聴きながら、思いをこめて演奏してください。



しゃ み せん 三味線

三味線の演奏を聴こう

長崎「**鐘子**」から
三好邦彦 作曲

歌謡曲の中で演奏される音楽です。豪快で勢いばらばらさや、三味線のさまざまな奏法に注目して聴きましょう。

参考曲
津軽三味線「津軽じゃんから節」
馬場貞雄



岸原進山さんからのメッセージ
「三味線」はその名前のとおり、それぞれ音色の異なる3本の糸を、ばらで使って演奏する楽器です。3本の糸からそれぞれどのような音が出るのか、まずは実際に弾いてみて、その魅力を見つけてください。

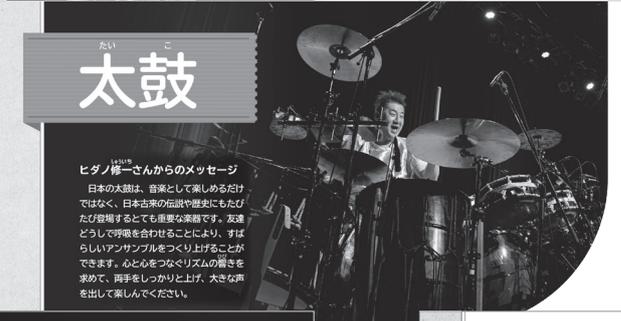
p.34

p.44

たい こ 太鼓

ヒタノ修一さんからのメッセージ

日本の太鼓は、音楽として楽しむだけでなく、日本古来の伝説や歴史にもたがひが宿るとしても重要な楽器です。友達どうしで呼吸を合わせるにより、すばらしいアンサンブルをつくり上げることができ、心を一つなくリズムの響きを求めて、両手をしっかりと上げ、大きな声を出して楽しんでください。



p.50

しの ぶ 篠笛

篠笛の演奏を聴こう

「**通り神楽**」
作曲者不詳

歌舞伎の音階や途中で演奏される音楽です。抑えない自由なリズムで、流れるような旋律が特徴です。

参考曲
向流おどり
(他 歌舞伎)

楽器を知ろう

●その歴史はたいへん古く、藤土吾郎と深い関わりをもっています。広く親しまれてきました。

しの ぶ 新保有生さんからのメッセージ

篠笛はシンプルなつくりの楽器ですが、柔らかな音から華やかな音まで幅広い表現ができます。音色だけでなく指打ちなどの奏法によって、演奏者ごとに全く違う個性をもった音に聞こえるところもこの楽器のおもしろさです。



p.56

しゃく はち 尺八

尺八の演奏を聴こう

「**鐘の巣籠**」(● p.52 本曲)
作曲者不詳 / 切田中徳山 編曲

鐘の籠子の様子を描写したとされる曲です。尺八のいろいろな奏法が用いられます。

参考曲
Amazing Grace
アメリカの古い旋律 / 藤原進山 編曲

楽器を知ろう

●江戸時代には、宗教的な修行の一つとして、遊樂や唄はれる人たちが演奏していました。
●明治時代になると一般の人たちも演奏するようになり、



p.60

4 さまざまな編成やジャンルの合奏曲を掲載しました。

さまざまな楽器による編成や、多彩なジャンルの音楽に触れられる合奏曲を掲載しました。

p.72

p.74

p.82

春(「和声と創造の試み」第1集(四季)から)
A. アップルバディ 作曲 / 岡田豊隆 編曲

原曲のイメージを大切に、フレーズをそのままから、アップルバディのスタイルでアレンジしました。
◎A部分を元にしたアレンジです。

Allegro C



笑点のテーマ
50年以上続いているテレビ番組のテーマです。調性やリズムのメロディラインは、原曲のイメージを大切にアレンジしました。

♩ 120-130



A Whole New World (映画「アラジン」から)
A. メンクワン 作曲 / 松浦雅也 編曲

前半と後半の調性を変えながら、Aパートの最後はより響きや調性を変えて演奏しましょう。

♩ 112くらい



p.86

p.87

p.92

7 教科書の特徴

基本事項	教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ●教育基本法第二条の「教育の目標」を達成するため、次のような点を重視して編修しました。 ①音楽を愛好し、音楽によって生活を豊かにする心を育む。 ②音楽科の確かな学力を育む。 ③主体的・対話的に学習に取り組む態度を育てる。
	学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領に示された音楽科の目標を踏まえ、指導すべき内容項目は漏れなく掲載しました。
内容	系統性	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年を通して、学習指導要領の内容に示された学習を段階的に進められるよう教材を選択、配列しました。
	配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ●各学校における楽器の整備状況や各楽器を扱う時数等を考慮して、掲載する順序や分量を設定しました。
	学習意欲・主体性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●目次とは別に、「器楽」と「創作」について、1年間の学びを俯瞰することができるページを掲載しました。(p.8・9)
	リコーダー ～ 打楽器	<ul style="list-style-type: none"> ●各楽器の特徴を理解し、その表現活動に必要な奏法、身体の使い方などの技能を習得できるように内容を精選しました。(p.10～67)
	創作教材	<ul style="list-style-type: none"> ●箏による表現活動と関連させて、スムーズに創作の学習に結び付けられるようにしました。(p.43)
	〔共通事項〕	<ul style="list-style-type: none"> ●一部の教材には、その教材を学習する際の目安となる〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」を示しました。(p.16、54、80、84)
	主体的・対話的で深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ●吹き出しなどで生徒の思考や判断を例示することによって、生徒の「思いや意図」を生かしながら「主体的・対話的で深い学び」を実現できるようにしました。(p.43、55、81、85)
	伝統文化の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ●我が国の伝統的な音楽に親しみながら、それらのよさを感じ取り、愛着をもつことができるようにしました。(p.34～62、p.92～95、p.98・99、p.107)
	国際理解	<ul style="list-style-type: none"> ●特に「打楽器」のセクションでは、諸外国の民族楽器も取り上げ、諸外国の音楽文化に対する理解も深められるよう配慮しました。(p.63～67)
	社会とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ●生活や社会の中の音や音楽について知り、それらと自分たちとのつながりを実感できる特集ページを設けました。(p.4・5、107)
その他	ICT 機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> ●紙面上の二次元コードを読み取ることによって、学習に役立つコンテンツへアクセスして閲覧、視聴できるようにしました。
	特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ●特別支援教育の専門家から助言を得て、活動文の配置を工夫するとともに、見やすく分かりやすい紙面になるよう配慮しました。
		<ul style="list-style-type: none"> ●色覚問題の専門家から助言を得て、色の見分けが付きにくい生徒の色覚特性も考慮した配色を採用しました。
文字・印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> ●ユニバーサルデザインフォントを大部分に使用することで、可読性、可視性が高まるよう配慮しました。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ●印刷は鮮明であり、製本は安全で堅牢な「アジロ製本様式」を採用しました。 	

2. 対照表

図書構成		学習指導要領の内容														
ページ	教材名	器楽				創作			音楽を形づくっている要素							
		ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	音色	リズム	速度	旋律	テクスチャ	強弱	形式	構成	
		(ア)	(イ)	(ア)	(イ)	(ア)	(イ)									
10～15 18～25	リコーダー	○	◎	◎	○				○			○	○			
16	聖者の行進	◎	◎	◎	◎	◎						○	○			
26～33	ギター	○	◎	◎	○				○	○		○	○			
34～42	箏	○	◎	◎	○				○			○				
43	My Melody					◎	◎	◎		○		○				○
44～49	三味線	○	◎	◎	○				○			○				
50～53	太鼓	○	◎	◎	○				○	○			○	○		
54	風にのって	◎	◎	◎	◎	◎				○			○	○		○
56～58	篠笛	○	◎	◎	○				○			○	○			
60～62	尺八	○	◎	◎	○				○			○				
63～67	打楽器	○	◎	◎	○				○	○						
71	Edelweiss	○	○	○	○	○						○	○			
72	春	○	○	○	○	○			○			○	○			
73	I Got Rhythm	○	○	○	○	○				○		○	○			○
74	笑点のテーマ	○	○	○	○	○			○	○		○	○			
75	海に見える街	○	○	○	○	○						○	○	○		○
76	美女と野獣	○	○	○	○	○						○	○	○		○
77	トリステータ	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○		
78	ブルタバ (モルダウ)	○	○	○	○	○				○		○	○			
80	千の風になって	◎	◎	◎	◎	◎			○	○		○	○			
82	A Whole New World	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		
84	Session I	◎	◎	◎	◎	◎			○	○		○	○			○
86	Bodipa Beats Z	○	○	○	○	○			○	○		○	○			○
87	大きな古時計	○	○	○	○	○						○				○
88	クラッピング ラプソディ 第1番	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○
90	打楽器のための小品	○	○	○	○	○			○	○		○	○			
92	MATSURI	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○		
94	「寄せの合方」によるリズムアンサンブル	○	○	○	○	○			○	○	○	○				
96～99	楽器で Melody	○	○	○	○				○	○		○				